





トイレ  
 バードウォッチング  
 駐車場

### 河口の生き物

**冬 春 トビハゼ**  
 全長約9cm。土器川では河口干潟の泥上に生息し、甲殻類やコガネを食べる。

**冬 春 ウミネコ**  
 全長44~48cm。土器川では冬季に河口干潟に飛来し、魚類や両生類、甲殻類、昆虫類などを食べる。

**冬 春 イトモロコ**  
 全長約8cm。土器川では下流域に生息し、特に出水(ですい)湧き水を主に農業用水として用いる取水施設)に多い。主に付着藻類やイトミミズなどの水生生物、底生の小甲殻類を食べる。

**冬 春 オカヨシガモ**  
 全長46~58cm。土器川では冬季に淡水域に飛来し、主に植物(種子や葉、根、水生植物など)を食べ、そのほか、昆虫や魚類、両生類などの小動物も食べる。

### 土器川の鳥類

県内では、これまで約300種の鳥類が確認されており、そのうち、土器川の中流(常包橋以北)から河口にかけての河川敷では、その3分の1にあたる106種が確認されている。多くの鳥類の繁殖地や餌場となっている。

### 土器川の哺乳類

土器川の中流(常包橋以北)から河口にかけて、計約13種の中型と小型哺乳類が確認されている。コウモリやネズミの仲間などの小型種は下流から中流にかけて広く分布する傾向があるのに対し、タヌキやテンなどの中型種は中流域で見つからない。正確に同定されたニホンイタチとシベリアイタチが同所的に生息している県下唯一の場所が土器川の河川敷であり、注目に値する。

**冬 春 カヤネズミ**  
 頭胴長54~79mm、尾長 47~91mm。日本最小のネズミで、背丈の高い草原に生息し、土器川では中流・下流域に生息する。雑食性で、昆虫やイネ科植物の種子などを食べる。写真のように、イネ科植物の葉で葉球形の巣をつくる。

### 下流の生き物

**冬 春 ヨシ**  
**秋 夏** 草丈200~300cmの大型の多年草。土器川では河口域の泥湿地に生育する。ヨシの群落は昆虫や鳥類などの貴重な棲みかとなる。中心の鳥はオオヨシキリで主にヨシ原に生息する。

**冬 春 ジュウクホシテントウ**  
**秋 夏** 体長約4mm。土器川では河口干潟のヨシ原に生息する。ヨシにつくモモコフキアブラムシを食べる。

**冬 春 ウスイロオカチグサ**  
**秋 夏** 船高約5mm。土器川では下流域の用水路の側縁の割れ目などに生息する。水際で遊動する場所から生きたりしない。陸上で、水にもくることが多い。

**冬 春 ツチガエル**  
**秋 夏** 体長37~53mm。土器川では上流域から中流域の閑静な場所で見られる。特に水田周辺の1年中、水が深くて水田に生息する。主に小型の昆虫類を捕食する。

**冬 春 シオマネキ**  
**秋 夏** 甲幅約35mm。土器川では河口干潟に生息する。干潮時には巣穴から出て砂を口に入れて有機物や藻類を食べる。

**冬 春 テナガエビ**  
**秋 夏** 体長約100mm。土器川では中流域から下流域で見つかった。主に水生動物や魚の死骸、イミミズなどの有機物を食べ、産卵なども食べる。

**冬 春 カジカガエル**  
**秋 夏** 体長37~69mm。土器川では上流域で見られる。川の中に直径約30cmの石が多い環境で見られることが多い。主に昆虫やクモ類を捕食する。

**冬 春 マツカサガイ**  
**秋 夏** 船高約60mm。土器川では中・下流域に広がる丸亀平野の用水路やため池に生息する。殻が十分硬まる程度の深さと柔らかい砂礫底を好む。河川改修の影響で絶滅の危機に瀕している。

### 中流の生き物

**冬 春 ゴキツツ**  
**秋 夏** 草丈約200cm。つる性の1年生。湿生植物で、土器川では主に下流域の日当たりの良い水辺に自生し、香ひびきをはかりの植物に巻きつかせては上がる。

**冬 春 アリアケスミレ**  
**秋 夏** 草丈5~20cmの常緑の多年草。土器川では中流域に自生し、やや湿った日当たりのよい河川敷で見られる。

**冬 春 ヤナギハムシ**  
**秋 夏** 体長約8mm。土器川では主に中・下流域に生息する。成虫も幼虫も、河川敷に自生するカワナギやシヤナギの葉を食べる。

**冬 春 カワデシヤ**  
**秋 夏** 草丈10~100cmの1年生。沓水~湿生植物で、土器川では中流域から下流域に自生し、川岸で見られる。

**冬 春 コムラサキ**  
**秋 夏** 前翅長:30~42mm。土器川では主に中・下流域に生息する。幼虫はヤナギ類の葉を食べて育つ。ヤナギ類は河川敷の水辺に生えるため、結果的にこのチョウは河川敷で見られる。

### 上流の生き物

**冬 春 タシギ**  
**秋 夏** 全長約27cm。土器川では冬季に川や周辺の水田に飛来し、主に昆虫類や甲殻類、その他動物等の小動物を食べ、植物の種子等も食べる。

**冬 春 オヤノラミ**  
**秋 夏** 全長約10cm。土器川では中流域の本流や支流に生息し、昆虫やエビ、小魚を食べる。

**冬 春 タヒバリ**  
**秋 夏** 全長約16cm。土器川では冬季に川原や海岸、農耕地などの開けた土地に群れて飛来し、主に地上で、草の実や昆虫類を食べる。

**冬 春 アカザ**  
**秋 夏** 全長約10cm。土器川では上流域に生息し、主に水生昆虫を食べる。

**冬 春 ナガレホトケドジョウ**  
**秋 夏** 全長約6cm。土器川では源流部に生息し、主に底生の水生昆虫などを食べる。

### 土器川の魚類

土器川では、これまでに純淡水魚34種、通し回遊魚17種、周縁性淡水魚(汽水域で見られる魚類の総称)50種の合計101種の淡水魚が確認されている。

**冬 春 カワガラス**  
**秋 夏** 全長21~23cm。土器川では主に上流域の深淵に生息し、カゲロウなどの水生昆虫やカニ・小魚を食べる。

### 源流の生き物

**冬 春 カツラ**  
**秋 夏** 樹高30mになる落葉高木。写真の大木は香川の保存木に指定されている「三角のカツラ」で、土器川上流の国道438号沿いに生育するが、植栽と言われている。

**冬 春 ニッコウネコノメソウ**  
**秋 夏** 草丈30~40cmの多年草。土器川では源流部に自生し、沢沿いのやや寒い水湿地で見られる。

**冬 春 ミズタバコ**  
**秋 夏** 草丈10~40cmの多年草。土器川では源流部に自生し、深流近くの水辺や湿地などで見られる。

### 土器川の貝類

土器川流域ではこれまで24種の淡水産貝類が確認されており、そのうち21種が在来種である。河口では32種の汽水産・海産貝類が確認されている。上流域周辺の森林には、多様なカタツムリの仲間(陸貝)が生息し、保全上の重要な地域となっている。

**冬 春 タゴガエル**  
**秋 夏** 体長30~58mm。土器川では源流域の山地や森林内の深流付近に見られる。主に昆虫やクモ、陸生の巻貝などを捕食する。

**冬 春 タゴガエル(卵塊)**  
**秋 夏** 初夏のころ、小さな深流の伏流水の水たまりや、岩の割れ目などに、30~160個の白い卵を産む。幼生は変態するまで卵塊の栄養だけで成長する。

### 土器川の両生類

源流から河口に至るまでの本流や周辺の水田、森林で計14種が確認されている。

**冬 春 カワニナ**  
**秋 夏** 船高約30mm。土器川では上流域から下流域に広く生息し、河川の本流や用水路に普通に見られる。

**冬 春 タビナサエ**  
**秋 夏** 体長42~46mm。土器川では上流域に生息する。羽化後は水辺近くの林縁などで摂食活動を行い、成熟すると水辺で繁殖活動を行う。

### 土器川の昆虫

土器川の中流(常包橋以北)から河口にかけて、1996年から2018年までに少なくとも(未同定種を除く)、1,419種の昆虫類が確認されている。

**冬 春 ホレアナミジシニナ**  
**秋 夏** 船高約1.5m。土器川では流れる緩やかな源流部の礫の底面や側面に生息する。県下では讃岐山脈の各河川の源流部に分布する。

**冬 春 シコクトゲオトンボ**  
**秋 夏** 体長38~53mm。土器川では源流部に生息する。世界中で4国だけに分布しているトンボで、森林に覆われた深淵で見られる。

### 土器川の植物

土器川の中流(常包橋以北)から河口にかけて、1993年から2012年までに計667種の維管束植物(シダ植物と種子植物)が確認されており、そのうちの461種(約70%)が在来種である。

### 土器川の甲殻類

**冬 春 ワカウラツボ**  
**秋 夏** 船高約6mm。土器川では河口域の泥に半分埋もれた礫の底面に生息する。この貝が生きていくうえで、生息場所にアナジャコなどの生物の遺骸が必要であることが判明している。河川改修の影響で絶滅の危機に瀕している。

**冬 春 ツチガエル**  
**秋 夏** 体長29~55mm。土器川では上流域から河口域まで広く見られる。特に水田周辺の1年中、水が深くて水田に生息する。主に小型の昆虫類を捕食する。

**冬 春 シオマネキ**  
**秋 夏** 甲幅約35mm。土器川では河口干潟に生息する。干潮時には巣穴から出て砂を口に入れて有機物や藻類を食べる。

**冬 春 テナガエビ**  
**秋 夏** 体長約100mm。土器川では中流域から下流域で見つかった。主に水生動物や魚の死骸、イミミズなどの有機物を食べ、産卵なども食べる。

**冬 春 カジカガエル**  
**秋 夏** 体長37~69mm。土器川では上流域で見られる。川の中に直径約30cmの石が多い環境で見られることが多い。主に昆虫やクモ類を捕食する。

**冬 春 マツカサガイ**  
**秋 夏** 船高約60mm。土器川では中・下流域に広がる丸亀平野の用水路やため池に生息する。殻が十分硬まる程度の深さと柔らかい砂礫底を好む。河川改修の影響で絶滅の危機に瀕している。

### 土器川の貝類

土器川流域ではこれまで24種の淡水産貝類が確認されており、そのうち21種が在来種である。河口では32種の汽水産・海産貝類が確認されている。上流域周辺の森林には、多様なカタツムリの仲間(陸貝)が生息し、保全上の重要な地域となっている。

**冬 春 タゴガエル**  
**秋 夏** 体長30~58mm。土器川では源流域の山地や森林内の深流付近に見られる。主に昆虫やクモ、陸生の巻貝などを捕食する。

**冬 春 タゴガエル(卵塊)**  
**秋 夏** 初夏のころ、小さな深流の伏流水の水たまりや、岩の割れ目などに、30~160個の白い卵を産む。幼生は変態するまで卵塊の栄養だけで成長する。

### 土器川の両生類

源流から河口に至るまでの本流や周辺の水田、森林で計14種が確認されている。

**冬 春 カワニナ**  
**秋 夏** 船高約30mm。土器川では上流域から下流域に広く生息し、河川の本流や用水路に普通に見られる。

**冬 春 タビナサエ**  
**秋 夏** 体長42~46mm。土器川では上流域に生息する。羽化後は水辺近くの林縁などで摂食活動を行い、成熟すると水辺で繁殖活動を行う。

### 土器川の昆虫

土器川の中流(常包橋以北)から河口にかけて、1996年から2018年までに少なくとも(未同定種を除く)、1,419種の昆虫類が確認されている。

**冬 春 ホレアナミジシニナ**  
**秋 夏** 船高約1.5m。土器川では流れる緩やかな源流部の礫の底面や側面に生息する。県下では讃岐山脈の各河川の源流部に分布する。

**冬 春 シコクトゲオトンボ**  
**秋 夏** 体長38~53mm。土器川では源流部に生息する。世界中で4国だけに分布しているトンボで、森林に覆われた深淵で見られる。

### 土器川の植物

土器川の中流(常包橋以北)から河口にかけて、1993年から2012年までに計667種の維管束植物(シダ植物と種子植物)が確認されており、そのうちの461種(約70%)が在来種である。

### 土器川の甲殻類

**冬 春 ワカウラツボ**  
**秋 夏** 船高約6mm。土器川では河口域の泥に半分埋もれた礫の底面に生息する。この貝が生きていくうえで、生息場所にアナジャコなどの生物の遺骸が必要であることが判明している。河川改修の影響で絶滅の危機に瀕している。

**冬 春 ツチガエル**  
**秋 夏** 体長29~55mm。土器川では上流域から河口域まで広く見られる。特に水田周辺の1年中、水が深くて水田に生息する。主に小型の昆虫類を捕食する。

**冬 春 シオマネキ**  
**秋 夏** 甲幅約35mm。土器川では河口干潟に生息する。干潮時には巣穴から出て砂を口に入れて有機物や藻類を食べる。

**冬 春 テナガエビ**  
**秋 夏** 体長約100mm。土器川では中流域から下流域で見つかった。主に水生動物や魚の死骸、イミミズなどの有機物を食べ、産卵なども食べる。

**冬 春 カジカガエル**  
**秋 夏** 体長37~69mm。土器川では上流域で見られる。川の中に直径約30cmの石が多い環境で見られることが多い。主に昆虫やクモ類を捕食する。

**冬 春 マツカサガイ**  
**秋 夏** 船高約60mm。土器川では中・下流域に広がる丸亀平野の用水路やため池に生息する。殻が十分硬まる程度の深さと柔らかい砂礫底を好む。河川改修の影響で絶滅の危機に瀕している。

### 土器川の貝類

土器川流域ではこれまで24種の淡水産貝類が確認されており、そのうち21種が在来種である。河口では32種の汽水産・海産貝類が確認されている。上流域周辺の森林には、多様なカタツムリの仲間(陸貝)が生息し、保全上の重要な地域となっている。

**冬 春 タゴガエル**  
**秋 夏** 体長30~58mm。土器川では源流域の山地や森林内の深流付近に見られる。主に昆虫やクモ、陸生の巻貝などを捕食する。

**冬 春 タゴガエル(卵塊)**  
**秋 夏** 初夏のころ、小さな深流の伏流水の水たまりや、岩の割れ目などに、30~160個の白い卵を産む。幼生は変態するまで卵塊の栄養だけで成長する。

### 土器川の両生類

源流から河口に至るまでの本流や周辺の水田、森林で計14種が確認されている。

**冬 春 カワニナ**  
**秋 夏** 船高約30mm。土器川では上流域から下流域に広く生息し、河川の本流や用水路に普通に見られる。

**冬 春 タビナサエ**  
**秋 夏** 体長42~46mm。土器川では上流域に生息する。羽化後は水辺近くの林縁などで摂食活動を行い、成熟すると水辺で繁殖活動を行う。

### 土器川の昆虫

土器川の中流(常包橋以北)から河口にかけて、1996年から2018年までに少なくとも(未同定種を除く)、1,419種の昆虫類が確認されている。

**冬 春 ホレアナミジシニナ**  
**秋 夏** 船高約1.5m。土器川では流れる緩やかな源流部の礫の底面や側面に生息する。県下では讃岐山脈の各河川の源流部に分布する。

**冬 春 シコクトゲオトンボ**  
**秋 夏** 体長38~53mm。土器川では源流部に生息する。世界中で4国だけに分布しているトンボで、森林に覆われた深淵で見られる。

### 土器川の植物

土器川の中流(常包橋以北)から河口にかけて、1993年から2012年までに計667種の維管束植物(シダ植物と種子植物)が確認されており、そのうちの461種(約70%)が在来種である。

**このガイドマップについて**

- 土器川には、このマップにある生き物の情報のほかにも、たくさんの素晴らしい場所があります。そんな場所を見つけたら、このマップに書き込んで、皆さんのオリジナルのマップをつくってください。
- このマップでは、自然観察に適した道を紹介していますが、登山道の途中には足元の悪い場所や幅の狭いところがありますので、十分に気をつけてください。
- この地図はデフォルト表示されていますので、距離の目測には適していません。

イラストマップは地理院地図(国土院)を加工して作成